

議 事 録

会議名	山梨がんピアサポート希望の会 第108回定例会
日時	2021年1月24日 10:00~12:00
場所	山梨大学医学部地域医療学講座設定 Zoom
参加者 イニシャル	W.N A.H K.N M.H M.M H.K N.M H.R H.K N.H (計10) オブザーバー：佐藤弥教授

議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1、近況報告 2、新型コロナウイルスアメリカでの接種情報共有 3、がん患者の就労支援に関するアンケート意見交換 4、新興感染症蔓延時におけるがんサバイバーのコミュニケーションについて 5、2020年度のオンラインピアサポーター養成講座および無料勉強会のお知らせ 6、事例検討 7、各自一言と佐藤教授からのコメント
-----	--

議事内容	
1. について	副代表が『山梨県がん相談支援ネットワーク委員』に就任した
2. について	<p>テキサス MD アンダーソンがんセンターの医師による新型コロナウイルスワクチン接種の情報発信を共有</p> <p>上腕三頭筋に筋注を2回行ったこと。間隔は3週間あけたこと。2回目の法が辛かったことなど。</p>
3. について	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん患者の就労に関しては、就労する企業側への情報提供が不足している ・ 患者の権利が尊重されるような恵まれた職場は少ない。山梨のような中小企業が多い地域は大変 ・ 職員同士の、普段からのコミュニケーションが大切 ・ 公務員はなんの心配もなく休職や復帰ができるが、それは公務員だからである。行政にはこの点がわかっていないように思う。 ・ 短時間のアルバイトでも、雇用主の理解があるとなんとかなる。企業側への働きかけが重要 ・ 仕事をしていなかったが、加入していた民間の医療保険でがん給付金が出たので助かった ・ アルバイト中がんに罹患。治療のため退職せざるを得なかった <p>《まとめ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ どの企業も育児休暇、介護休暇のように、治療に対する就労規定を定めて欲しい。 ➤ 障がい者手帳を持つような方に対する対応はあるが、がん治療者にはない。 ➤ オストメイトに対する対応をどうしたら良いのかも情報共有して欲しい。

4、について

大部屋に入院中の子どもの親同士のコミュニケーションがお互いの癒やしになった経験がある。心の癒やしに関しては、医師が入り込めない領域。

この領域は、体験者同士でサポートすることがとても大切。

看護師等のサポートもできるが、体験者にはかなわない。

ただし、医療費等に関することは、病院にある窓口で、ソーシャルワーカーを通して多少のサポートはできるかもしれない。

5、について

- ・ 今年度のピアサポーター養成講座は、基本的にオンラインで行う
今後もオンラインサポートやオンラインセミナーが増加することが予測される
- ・ 乳がんに関するオンラインセミナーと、第18回臨床腫瘍学会の一般参加について紹介した

6、について

化学療法によるしびれに対する事例検討を行った

化学療法でしびれを体験したメンバーからそのときの対処法や心の在り方を話してもらった。ビタミン剤を支持療法として処方されたメンバーもいた。しびれが起こっていたとき、お湯で指先を温めてから家事等を行った体験談があった。家族がしびれを訴えたとき、和らげてあげたくてもなかなかできずに辛かった話がでた。

7、について

メンバー全員から一言ずつコメントがあった。

全員でパソコンのカメラに向かってスクリーンショットを撮って会を終わった。

定例会 次回予定	第109回定例会 2021年2月28日(日) 10:00～ 山梨大学医学部地域医療学講座設定 Zoom
---------------------	---